

WPI News Letter

No. 98

1980年3月1日・戦争抵抗者インター日本部・大阪市阿倍野区旭町2-12-2 発行 ウリ大阪

宇利乃奈加乃乃要以古止葉 喫天尔乃里起。

振替・大阪三三七三七・ウリジャパン同井 存



被曝労働 その恐怖の実態

原発は差別労働なしに動かない！



反原発が、だいぶんひろがったといっても、私たち加やる集会というところ、まあせいぜい六十人くらい来ればいいところ。ところが、この日、「原発ジプシー」の著者、堀江邦男さんを紹介しての集会は二百近くの人たちで入口までもり上った。実行委もこんなにくると思わなかったらしく、百人くらいが定員の会場は文字どおりパンク寸前、あふれんばかりの人だった。パネラーとして堀江さんの他に岩佐訴訟の岩佐さん、それを支援する阪大の岡村さん。いま大飯原発で三日ほど働いて帰ってきたばかりだから、みなさんあんまり私に近づくこと危険ですよといって笑わせた全金労組・原発関連労組の谷村さん、それからたけへんな力の入れ方で伊方訴訟・岩佐訴訟の主任弁護士としてかわってききた藤田さん。

話は、文字どおり直接原発の、内身にふれることなので、奥の方は息をのむようになった。

たとえば堀江さんの一

「原発という、科学技術のスイをさわめた、近代的設備のもとに、仕事は全てボタン一つで処理される……なんて思われているかもしれませんがこんでもない。近代的どころか、原始的そのもの。事故が起きて修繕するとか、原発を止めて定期検査をするとか、というようなことは全く考えられていない設計。」

たとえばね、タンクにヘドロがたまる。容器には限度があるから当然そのうち満パイになるわけだ。そして、自動的にそのヘドロはパイが何かで別のところへ運ばれてパックでもするようにしてあると思うでしょう。それが、人がバケツを持



▼3月24日(木)スリーマイル島事故一周年反原発行動前夜講演会へスリーマイル島現地を調査して「この恐しい東條・新野見也・中尾ハジメ氏

ってはいって直接手でくみ出して、ビニール袋に入れてかい出すわけですよ。ヘドロだったって、ふつうのヘドロじゃない。いわば放射能の濃縮ジュースみたいなやつで、猛毒そのもの。これを人が直接手でかい出すってんだからおそれいる。

宇宙服とよんでる防護のビニール服を着てはいるんだけど、この服がまた難儀なわけ。すでに何枚も下にかさね着してる上に、まるきり通気性がないからあつくてたまらない。着てるだけで、もう地獄のようなもの。その上、人工で送られてくる空気はかわいてるので、数分たつとノドがひりひりしてくる。酸欠で頭がガンガンしてフラフラとする。まわりが回転します。つかれても放射能で汚染されてるからすすめることも、壁にすくこともできない。全面マスクだから、いっしょにはまってる人と声も交わせない。まっくらなところで、たった二人、おたがい背中をきでたいてはげましあつた。

タンクに入る前に、こんな注意があった。「命綱である空気パイプが、なんかのぐあいでも空気が送られてこない時がある。その時は、こうすればマスクが取れるから、早く脱ぎなさい」というのだ。「えっ、そしたら放射能を吸いこんじゃうじゃないですか」というと、「放射能を吸いこんでもすぐ死ぬわけじゃない。一週回復か、一ヶ月後か三ヶ月後か、もしかしたら十ヶ月後かもしれない。が、空気がこなくなったらその場でちっ息死だ」「……」

これが原発労働者。労働者は日々死ととなりあわせて働いている。原発というのは核燃料がもえて動くのではない。労働者が毎日毎日被曝することの上に動いている。そんな労働者なんかどうなってもよ

い、という差別の上に成立している。□

「こうやって堀江さん自身も被曝した。

それで、へたと

えば朝顔を

みかく、血

かでる、もしや

……と不安になつてし

まう。こんな状態を堀江

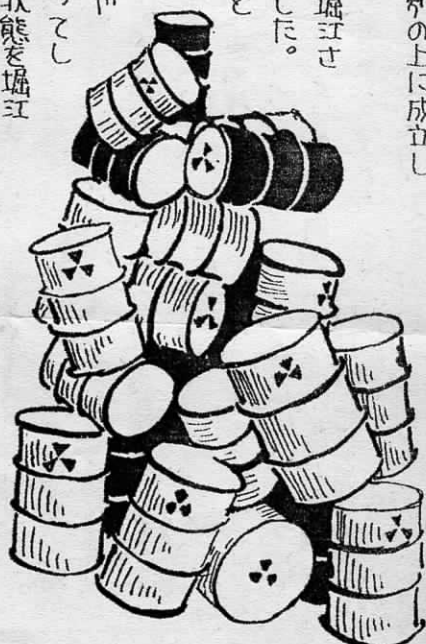
さんは、放射能の囚人」と名づけている。その身をもって、私たちにその恐怖を伝えてくれた。

★★★★★

岩佐さんの奥さんは、去年病気でなくなられた。その病床を見舞う人ごとに、「こんな風で死にたくない。死ぬんなら、つるが原発の前で首をくくって死んでやりたい」といわれたそうだ。

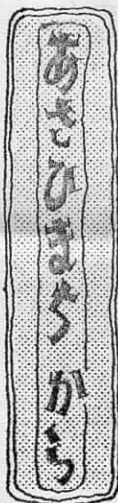
岩佐さんは、「自分のうけた苦しみ、他の人たちにくりかえさせてはいけな。苦しいからこゑ、悲しいからこゑ、淋しいからこゑ、私の身体が続くかぎり叫びつづける」と目かしろをおさえていわれた。

現在、原発労働者全帳を持っている人は十万人以上に達しているという。すでに十万人の被曝者がつくられているというところだ。被曝の問題は、単に原発労働者だけのことではない。そのような労働者の差別を許し、黙認している私たちの問題である。



▼ウリニユースは「送付用封筒」(宛名記入用)の手配(約半半分)を送つて下されば、毎号お送りします。

もうおつつかないかもしれない。でも岩佐さんのような人が堀江さんのような人が今もつくられているとすれば、私たちは反原発の斗いを一刻も休むことなく続ける以外にはないのだ。(ふう)



何てや知らんけど、このごろ

ずつと・張込み・尾行されてますねん

ウリ事務所があるアパートアサヒ荘の玄関の戸をあけるーといひるのだ。いいかげん頭にくる。20日の朝から、もう10日目や。

26日、夕方の6時半すぎ、訪ねてきていた8人みんなとケルトンの方で食事すまし、まずオイチャンが先に一人、ウリ事務所へと、前の石段をのぼつていった。一分もすると、三方の小路から私服が一人ずつあらわれ、そのあとを追う。部屋へ戻つたのを見定めて、それから横す20メートルほどに駐めてある車のところへいく。

洗いものなどで10分ほどおくらせて、私が石段をあがつていくと、サアツと、車のライトが射してきた。

どういふわけか、例の車がリターンしようとして、すこし広くなつていける石段ぎわまで出てきたのだ。ところがどつこい、ここは絶対に車がまわれ右でできる広さやない。

やりそこなつて、植木にあたり、あわてて、二人の私服がおりてきて、車をおしやる。ウイン、ウインとエンジンの音がうるさいこと。

▼3月28日(金) 反原発大行動・集会とデモ。PM6 扇町公園。五千規模 市民、労働者、学生、主婦、子ども、老人総出の大デモを!

「どうしたん。故障でもしたの?」

「ちがうワイ。ちゃんとして動いてるやろ」

「ここは小型でもまわれ右でけへんネン。出たんやつたら、そのままバックせんとアカンでエ」

「わかつてるワイ」

「もう今日は帰るんやね」

「なんて帰るかい。これからや」 それから、

「ホンマに、もつとないところに住め」とか

「めしもつて」とか、一体、なんちゆうない草や! ほんまに、こいつら何と思てるのやろ。

それで、とつぜん思ひたつて、それから二時間ほどのうちにピラキ千枚ほどつくつた。へそれが同封のへ知つてますか? のピラキ

原南連のへ原案のツケはごのへー禮氣將金値上げに反対しますのしあり(これを同封したくさんつくつたので、あなただの近所に配つて下さい。裏表一枚三円。60円送料で10枚送れる。)にはすみこんで、旭町周辺四百戸ほどに、数人泊り込みでその夜ひそかに、ポスト受けに入れてまわつた。

それを知つてか知らずにか、あいもかわらず車は横すにとまつて、

三組ぐぐらいが交替で入れかわり

立ちかわり、見張つてる。

ちよつとオイチャンが動くと

たちまち、とび出してきて、もう



